

OpenAI 「研究の80～90%がGPT-7以降」 発言の検証 と次世代モデル戦略の影響分析

エグゼクティブサマリー

結論から言えば、Boris Power氏が「OpenAIの研究の80～90%はGPT-7、GPT-8、その先に向けられている」と発言したこと自体は、かなり高い確度で事実である。2026年9月23日にカリフォルニア州メンロパークで開催されたFellows Forum AI Summit 2026の公開録画が存在し、イベント主催者の公式ページは、Power氏を「Head of Applied Research / OpenAI」として、午前10時から10時40分のセッション「Where Models Meet Reality」に登壇したことを確認している。複数の独立した文字起こし・動画クリップも同じ発言を記録している。 ¹

ただし、流布している日本語・中国語等の記事には**二つの重要な誇張**がある。第一に、Fellows ForumはOpenAIの「社内イベント」ではない。Fellows FundとNebiusが共同開催し、NVIDIAがパートナーとなった招待制の外部AIサミットであり、OpenAI、Google DeepMind、Microsoftなど多数の企業が参加した。第二に、Power氏の原文は「80～90% of the **research**」であって、「研究**予算**」「研究**人員**」「R&D resources」「**計算資源**」の80～90%とは言っていない。後者の表現は一部二次報道による拡張解釈である。 ²

したがって、本件を最も正確に表現するなら、

「OpenAI応用研究責任者Boris Power氏は外部イベントFellows Forumで、自身の概算として『OpenAIの研究の80～90%はGPT-7、GPT-8、その先にフォーカスしている』と述べた。ただし、この80～90%が予算・人員・GPU・研究時間のどれを測った数字なのかは定義されず、会社が監査・公表した資源配分比率ではない」

となる。

Power氏の実際の発言は次の通りである。

“So still 80, 90% of the research at OpenAI is focused at GPT-7, GPT-8, and beyond...”

すなわち「今でもOpenAIの研究の80～90%はGPT-7、GPT-8、その先に向けられている」という趣旨である。Power氏は続く文脈で、その理由を、次の基盤モデル世代から最も大きな価値が生まれるとOpenAIが考えているためだと説明した。 ³

本調査で確認できた公開情報の範囲では、**OpenAI自身が公式ブログ、システムカード、財務資料等で「80～90%」という数字を追認した例は見つからない**。一方、OpenAIの2026年の公開資料は、GPT-6 Astraを「長年の研究と、pre-training、reinforcement learning、alignmentへの大きな賭け」の成果と説明しており、採用情報でも次世代生成モデル、強化学習、汎用エージェント、長時間ツール使用等への研究者募集が続いている。そのため、Power氏の描く方向性そのものは公開された企業行動と整合する。 ⁴

検証結果の要約

論点	判定	根拠・留保
Boris Power氏が発言した	ほぼ確認済み	主催者公式録画＋複数の文字起こしが一致。 ⁵
発言日は2026年9月23日	確認済み	Fellows Forum公式アジェンダ。 ⁶
Power氏の肩書はOpenAI Head of Applied Research	確認済み	主催者公式プロフィール。 ⁷
「80～90%」という数字	本人発言として確認可能	公開録画を元に複数転記。 ³
「研究リソースの80～90%」	厳密には未確認	原文は“80-90% of the research”。予算・人員・computeとは定義していない。 ⁸
「社内イベントで発言」	誤り	Fellows ForumはFellows Fund×Nebiusの外部・招待制サミット。 ⁹
GPT-7/GPT-8の正式ロードマップ	未確認	OpenAI公式Research IndexにはGPT-6系列までの公開情報はあるが、GPT-7/8の日程・仕様は公表されていない。 ¹⁰
80～90%を示す公式予算・人員表	存在を確認できず	OpenAIの公開資料では該当する定量内訳なし。
次世代モデルへの巨額投資方向	強い傍証あり	Stargate、10GW計画、報道ベースの約6,000億ドルcompute計画、次世代研究職募集。 ¹¹

本件の本質は、「OpenAIが会社資源の90%をGPT-7に突っ込んだ」という会計的事実ではなく、**応用研究部門の責任者が、現在製品の微調整よりも次世代の基盤能力を生み出す研究を圧倒的に重要視している、と公の場で述べたことにある。**この区別は、今後の競争・規制・投資を論じる上で非常に重要である。

発言の一次ソース、日時、文脈と事実検証

一次ソースの所在

Fellows Forum AI Summit 2026は2026年9月23～24日にメンロパークで開催された招待制サミットで、Fellows FundとNebiusの共同開催、NVIDIAのパートナーシップによるイベントだった。オンライン参加者向けにはYouTubeライブ配信も提供された。Power氏の登壇は初日9月23日、10:00-10:40 PTのFireside Chat「**Where Models Meet Reality**」で、テーマは「Turning frontier intelligence into agents and scientific breakthroughs」である。対談相手はAbridge共同創業者・元CTOのZachary Lipton氏だった。¹²

主催者サイトは現在も同セッションを「▶ Recording」として掲載しており、したがって**最上位の一次ソースは主催者が公開しているDay 1録画**である。公開録画を検証した二次資料は問題の発言を録画開始から概ね1時間32分台に置いており、別の文字起こし・SNS動画クリップでも同一文言が確認されている。時刻は編集や動画版によりずれる可能性があるため、本報告では「約1:32:52」を検索用の目安とし、絶対的なタイムコードとは扱わない。¹³

正確な引用と、その直前の意味

著作権上必要最小限の原文を掲げると、核心部分は、

“So still 80, 90% of the research at OpenAI is focused at GPT-7, GPT-8, and beyond...”

14

である。

Power氏は同世代モデルへの個別改善を“extremely short-sighted”と位置づけつつ、それらは“help us iterate and learn faster today”のために実施すると説明した。つまり、GPT-5.1→5.2のような同一基盤上の特定データ追加や弱点修正は無価値なのではなく、**短期学習・製品改善には有用だが、長期的な能力向上の主因とは見ていない**、という比較である。 14

Power氏はさらに、大きな次世代モデルを作った後、その能力を小型モデルに蒸留する構図を説明している。AI.infoによる記録では、強力な大型モデルを「teacher」として用い、より小さい「student」を訓練するという発想を明示しており、これはGPT-6 Astraから低コストのLuna系へ能力を移す例で説明された。 8

したがって「80～90%」発言は、単に「巨大モデルだけにGPUを使う」という話ではない。むしろPower氏の戦略ロジックは、

次世代フロンティアモデルをまず能力の源泉として作る → そこから学習・蒸留する → 小型・低コストモデルやアプリケーションに能力を移す

という「frontier teacher → distilled deployment models」の構造だと読むのが自然である。これは後述するMetaのLlama 4 Behemoth→Scout/Maverickという明示的teacher構造とも類似している。 15

「研究」と「研究リソース」は同じではない

ここが本件で最も重要なファクトチェックである。

原文は“80, 90% of the research at OpenAI is focused...”であり、

- 研究予算の80～90%
- 研究者の80～90%
- GPU時間の80～90%
- OpenAI全従業員の80～90%
- 全R&D支出の80～90%

とは述べていない。AI.infoも、この数字を「rough allocation」とし、公開されたstaffing、spending、computeの内訳ではなく、測定法も提示されていないと明記している。 8

一方、AIBaseなど一部報道はこれを「80-90% of R&D resources」に変換しており、さらに他言語圏の記事がその表現を再転載している。したがって、情報伝播は概ね次のように変形したと判断できる。 16



AとBは発言から支持される。Cはやや強い言い換え、DからEは公開証拠では支持されない。

「社内イベント」という記述も訂正が必要

Fellows ForumはOpenAI社内会議ではなく、「founders, researchers, and investors」を集めた外部イベントで、Google DeepMind、Microsoft、NVIDIA、ServiceNow、Replitなどの登壇者も並んでいる。招待制だったことは事実だが、**private=OpenAI internalではない**。

この誤認は発言の価値を下げるものではない。むしろ、非公式な内部リークではなく、**所属と肩書を明示したOpenAI幹部が録画・配信される業界イベントで発言した点**は、発言の真正性を高めている。ただし、会社として承認された財務開示ではないという別の留保が必要になる。

OpenAI公式声明・内部資料の有無

2026年10月9日時点で確認したOpenAI公式Research Index、GPT-6公開資料、採用ページ等には、「80～90%」「GPT-7」「GPT-8」に関する同じ定量配分を会社として明記した資料は確認できなかった。OpenAIの公式Research Indexは10月7日時点でGPT-6、GPT-6.1 Sol、GPT-6 Sol/Luna等を列挙しているが、GPT-7/8の正式発表や発売時期は掲載していない。

したがって、現時点の証拠レベルは次のように分けるべきである。

証拠	性質	信頼度
Fellows Forum公式アジェンダ・録画	イベント一次資料	非常に高い 17
Power本人の映像・音声発言	発言内容の一次資料	非常に高い
Fireside Alpha等の文字起こし	一次映像の転記	高い 14
AI.info等による文脈整理	二次報道	中～高 8
「R&D resources 80-90%」との転載	意識・拡張	中～低 18
OpenAI公式の80～90%配分表	確認できず	—
公開された内部予算・人員表	確認できず	—

なお、GPT-7/8という名称も、現時点ではPower氏が将来世代を指すために使った呼称とみるのが安全である。**正式製品名、完成済みモデル、発売コミットメントを意味するとまでは立証できない**。

OpenAIの研究資源、採用動向とGPT世代別の比較

公開データで分かること、分からないこと

OpenAIは非上場企業であり、上場企業の10-Kのような詳細なR&D費・研究部門人員の法定開示は行っていない。このため、「研究予算が何十億ドルで、その90%がGPT-7」という精密な計算は現時点では不可能である。

一方、総合的な計算資源・インフラ投資の規模については非常に強い公開シグナルがある。

OpenAIとSoftBank等は2025年1月、OpenAI向けAIインフラを米国内に構築するStargateについて、今後4年間で**5,000億ドル**を投資する意向を発表し、当初1,000億ドルの投入を開始するとした。これは研究予算ではなくデータセンター・計算基盤への投資計画である。 ¹⁹

2026年1月、OpenAIはStargateについて、米国で**2029年までに10GW**のAIインフラを目指し、計画容量では既にその半分以上を大きく超え、テキサス州Abileneでは前線AIシステムの学習・推論が始まったと公式に説明した。またSB Energyとの提携では1.2GWのデータセンターリースを公表している。 ²⁰

Reutersは2026年2月、事情を知る人物の話として、OpenAIが2030年までに合計約**6,000億ドルのcompute spending**を目標としていると報じた。同記事は2025年の売上を130億ドル、支出を80億ドルと伝えているが、これらはOpenAI自身の監査済み研究費開示ではない。Stargateの5,000億ドルと6,000億ドルを単純加算することもできない。計画対象、出資主体、契約期間が重複し得るためである。 ²¹

さらにFinancial Timesは2026年10月9日時点のOpenAIのannualised revenueを約500億ドルと報じる一方、2030年までの巨額キャッシュバーンを見込む投資家資料についても報じている。これも、次世代研究への資金余力と資本調達依存度の大きさを示す材料ではあるが、「GPT-7予算」を直接示すものではない。 ²²

人員配分と採用から見える研究重点

OpenAIの公式求人は、Power氏の発言とよく整合する。

RL/ReasoningチームのResearch Engineer/Research Scientist募集では、同チームがo1・o3を生み出した「core reasoning paradigm」を推進し、「next-generation generative models」を構築し、汎用エージェントの能力とalignmentを進めると明記されている。サンフランシスコ勤務の基本給レンジは29.5万～44.5万ドルであり、フロンティア研究人材そのものが高コスト資源であることも分かる。 ²³

ほかにも公開求人では、長期実行・コンピュータ利用・multi-agent coordinationを扱うCodex研究、履歴から学習するpersonalization/memory、pre-trainingからRL・post-training・evaluationまでを含むHealth研究などが確認できる。つまり研究ポートフォリオは「巨大な事前学習一辺倒」ではなく、**pre-training + reasoning/RL + agents + memory + safety/evals + domain research**に広がっている。 ²⁴

独立系ATS集計では2026年9月時点のOpenAI求人をおよそ757～830件とするスナップショットがあり、「Research」と明示分類される求人は約7～8%だった。ただし、Scaling、Engineering、Applied AIなどにも研究職が含まれるため、この比率を「研究者の比率」やPower氏の80～90%と比較するのは不適切である。これは**現在の人員構成ではなく、ある時点の欠員・増員需要**にすぎない。 ²⁵

GPT-3からGPT-6までの公開情報比較

過去世代について「研究資源の何%を投入したか」という数字は、公開一次資料からは得られない。そのため、数値を捏造せず、公開された研究重点と資源の証拠を比較する方が妥当である。

世代	公開時期	公開資料から見える研究の中心	資源に関する公開証拠	配分率
GPT-3	2020	175Bパラメータ、few-shot、pre-training scaleの拡大	論文でモデル規模を詳細公開。Scaling Laws研究と密接。 ²⁶	非公開

世代	公開 時期	公開資料から見える研究 の中心	資源に関する公開証拠	配分率
GPT-4	2023	multimodal、予測可能なscale、alignment	OpenAIはAzureと深層学習スタックを約2年かけ再構築、学習後さらに約6か月alignment、50超の専門家によるred teaming等を説明。 ²⁷	非公開
GPT-5	2025	高速モデル+深いreasoning+routerを統合するシステム設計	利用シグナルでrouterを継続学習。main/thinking/mini/nano等を組み合わせる構造。 ²⁸	非公開
GPT-6 Astra	2026	pre-training、RL、alignment、computer use、science、cyber、agents	OpenAI自身が「years of research」「big bets」と説明。Safety投資も増大。 ²⁹	非公開
GPT-7/8以降	未発表	Power氏によれば研究の主眼	「80～90% of the research」という本人の概算のみ。 ¹⁴	研究焦点として80～90%、資源比率は不明

ここから読み取れる重要な変化は、GPT-3時代の「パラメータ数・pre-training computeを主軸としたscale」から、GPT-4以降は**インフラ、post-training、alignment、evaluation、推論時compute、agent harness、security**を含む巨大なシステム工学へ資源の意味そのものが広がっていることである。³⁰

したがって、将来モデルで「90%の研究」と言っても、「90%のGPU」という意味にはまずならない。

GPT-7以降で想定される技術的課題と必要資源

Power氏の発言を真に重要にするのは、単に次のモデル番号が存在することではなく、**GPT-7以降を作るにはGPT-3→4の延長線以上の資源構造が必要になる可能性が高い点**である。

学習スケーリングから「複合スケーリング」へ

OpenAI関係者による2020年のScaling Laws研究は、言語モデルのlossがモデルサイズ、データ量、computeに対してpower law的に改善することを示した。DeepMindのChinchilla研究はその後、固定compute下では単にパラメータを巨大化させるのではなく、**モデルサイズと学習トークン数を共に増やす**ことが重要と示した。³¹

さらにOpenAIのo1研究では、性能がRLを含む**training-time compute**だけでなく、回答時により長く考えさせる**test-time compute**でも改善するとされた。これは次世代モデルの資源問題を大きく変える。高性能化すればするほど、学習一回のGPU費だけでなく、日々の推論費も戦略的ボトルネックになるからである。

³²

GPT-7以降ではしたがって、

総AI資源 $\approx$ Pretraining + RL/Post-training + Inference reasoning + Agent trajectories + Evaluation/Safety
として考える必要がある。

高品質データの制約

Epoch AIは、学習に実効的に利用できる公開・人間生成テキストのストックを約**300兆tokens**、90%信頼区間100兆～1,000兆tokensと推計している。これはOpenAI公式推計ではないが、「ウェブテキストをただ増やし続ける」戦略には有限性があることを示す代表的研究である。 ³³

したがって次世代では、合成データ、expert-generated data、検証可能な数学・コード・科学データ、video/audio、実環境agent trajectories、そして大型teacherモデルによる蒸留データの価値がさらに高まると考えられる。これはPower氏が大型モデルをteacherとして小型studentへ能力移転する説明とも整合する。 ⁸

ただし、合成データには誤りの自己増幅や分布縮退の危険があるため、「大量生成」よりも**自動検証可能性**と**selection**の方が重要になるというのが本報告の推論である。

長時間エージェントの信頼性

GPT-6 Astraの公式説明が前面に出しているのは、computer use、browser use、software engineering、science、professional workflowsである。つまり次世代の能力競争は「一問一答の正答率」から、「何十分・何時間にもわたって環境に働きかけ、途中状態を保持し、ツールを使い、失敗を修正できるか」に移っている。 ³⁴

これは評価を急激に難しくする。Anthropicも、agentは複数ターンでツールを使い状態を書き換えるため、従来モデルより評価が難しいと説明している。 ³⁵

次世代に必要な研究資源は、モデル重みだけでなく、

大規模なsandbox、シミュレーション環境、実ソフトウェア、長時間trajectory評価、red-team agents、監査ログ

に移っていく可能性が高い。

サイバー・バイオ・自己改善能力の安全性

OpenAIはGPT-6 Astraを、同社Preparedness Framework上で初めて**Criticalのcybersecurity capability**に達した広範配備モデルと説明している。適切なツールとアクセスがあれば、人間が逐一誘導しなくても未知の脆弱性を発見し、保護されたシステムに対する新たなexploit方法を開発し得るとして、checkpoint encryption、より厳格なisolation、全trajectory監視、内部使用前のblocking alignment evaluationなどを導入した。 ³⁶

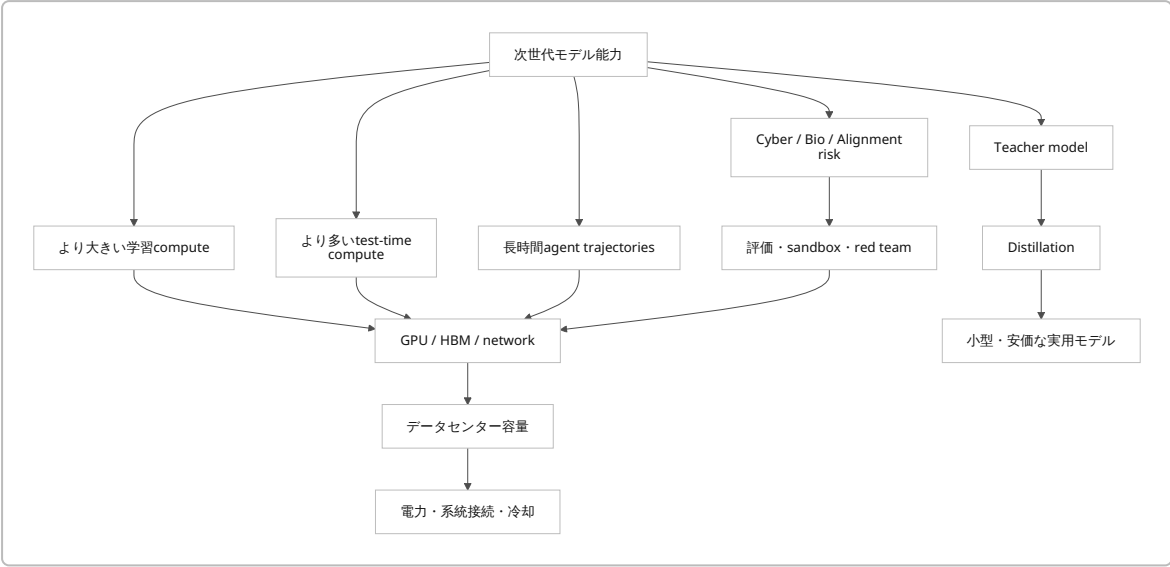
この状態からさらにGPT-7/8へ進むなら、**capability research**と**safety research**を分離した副次的活動として扱うことが難しくなる。モデル能力が高まるほど、安全評価そのものが巨大な計算・人員・セキュリティ資源を消費するからである。

電力・データセンター・半導体

IEAは2024年の世界のデータセンター電力消費を約415TWh、世界電力消費の約1.5%と推計し、2030年には約945TWhへ倍増すると予測している。AIが増加の最大要因で、米国では2030年までの電力需要増のほぼ半分をデータセンターが占めるとのベースケースである。 ³⁷

さらにIEAは、系統接続制約によって2030年までに計画される世界のデータセンター容量の約20%が遅延リスクにさらされ得ると分析している。³⁸

つまりGPT-7以降の実際の制約関数は、



となる。

技術課題と資源の対応表

課題	次世代で必要になるもの	主要リスク
Pre-training scale	GPU/accelerator、HBM、高速 interconnect、巨大cluster	費用、歩留まり、通信・電力制約 ³⁹
データ	高品質human data、synthetic data、multimodal/trajectory data	データ枯渇、汚染、自己増幅誤差 ³³
Reasoning/RL	verifier、reward systems、大規模rollout	推論コスト爆発、reward hacking ⁴⁰
Agents	computer environments、sandbox、memory、tool APIs	長時間誤作動、権限濫用
Safety	cyber/bio eval、red team、checkpoint security	デュアルユース、内部モデル漏えい ³⁶
Deployment economics	distillation、routing、caching、小型model	capability loss、複雑なmodel orchestration
電力	GW級発電・系統・冷却	建設遅延、電力料金、環境負荷 ⁴¹

この観点から見ると、Power氏の「80～90%」は必ずしも「いまGPT-7という単一巨大training runが90%を消費中」という意味ではない。**将来の世代交代を可能にするアルゴリズム、データ、RL、evaluation、agent infrastructure、安全技術まで含む研究ポートフォリオを指している可能性が高い。**これは推論であり、OpenAIによる内訳開示ではない。

Anthropic、Google DeepMind、Metaとの競争

OpenAIが次世代基盤モデルを主戦場と見ているとしても、競争相手は同じ方法だけを採用しているわけではない。2026年の競争は「最大モデルを一つ作る競争」から、**frontier model + 小型モデル + agent + infrastructure + distribution + safety governance**の複合戦になっている。

競争戦略の比較

企業	2026年時点の主な動き	戦略的特徴	OpenAIへの意味
OpenAI	GPT-6 Astra、Sol/Luna、GPT-6.1 Sol。computer use、coding、science、cyber、agentsを前面化。 ⁴²	巨大frontier model→蒸留・tier化、Stargateで垂直的compute確保	基盤能力で先行し続けなければ巨額固定費の正当化が困難
Anthropic	Claude Opus 5.5、Fable 5.1、Haiku 5.5。長時間agent・coding・科学用途を拡大。 ⁴³	frontierから低価格modelまで高速展開、RSPを制度化	性能だけでなく安全性・enterprise trust・価格競争
Google DeepMind	Gemini 3.1 Pro～3.8系、Gemini agent、Robotics ER 2。 ⁴⁴	TPU、Cloud、Search/Workspace、roboticsまで垂直統合	compute・データ・distributionを全て持つ最大級競争相手
Meta	Llama 4、Muse、画像・動画モデル、custom silicon拡大。 ⁴⁵	open-weight ecosystem + 巨大consumer distribution	frontier API価格を圧迫し、能力のコモディティ化を促進

Anthropicは2026年9月のClaude Opus 5.5を長時間agent、coding、professional work向けの最上位モデルとして展開し、同時にHaikuのコストを大きく下げている。これは「最高性能モデルを作った後、経済的に使いやすいモデル階層へ展開する」という点でPower氏のteacher/student構想と競合する。⁴⁶

インフラ面でも競争は激しい。Reutersは、AnthropicがGoogle Cloudとチップ利用に5年間で約2,000億ドルをコミットしたと報じ、複数GWのTPU容量が2027年から稼働予定だとしている。報道ベースであり契約全文は公開されていないものの、**数百億ドルではなく数千億ドル単位のcompute commitmentがフロンティア企業の標準になりつつある**ことを示す。⁴⁷

Google DeepMindは、単一LLMに閉じず、native multimodal reasoning、音声、agent、embodied reasoning/roboticsを同一Gemini系へ広げている。2026年10月8日にはGoogle Cloudが仕事を横断して動くGemini agentを発表した。⁴⁸

Metaは2025年のLlama 4で既に、巨大なBehemothをScout/Maverickの**teacher**として利用する構想を公式に説明していた。これはPower氏が2026年に述べた「まず超高能力モデル、その後studentへ蒸留」という方式がOpenAI固有というより、フロンティアAIの一般的アーキテクチャ経済になりつつあることを示す。¹⁵

競争上の含意は明瞭である。OpenAIが研究の大半を次世代へ振り向けることには合理性がある一方、**GPT-7が遅れる、期待ほどの能力ジャンプを生まない、あるいは競合が小型モデル・agent・distributionで先に収益化する場合、その集中戦略の機会費用は非常に大きい**。

つまり「80～90%」は強さの証拠であると同時に、**集中リスクの告白**とも読める。

産業、規制、倫理、労働市場への影響

産業構造は「巨大化」と「低価格化」が同時進行する

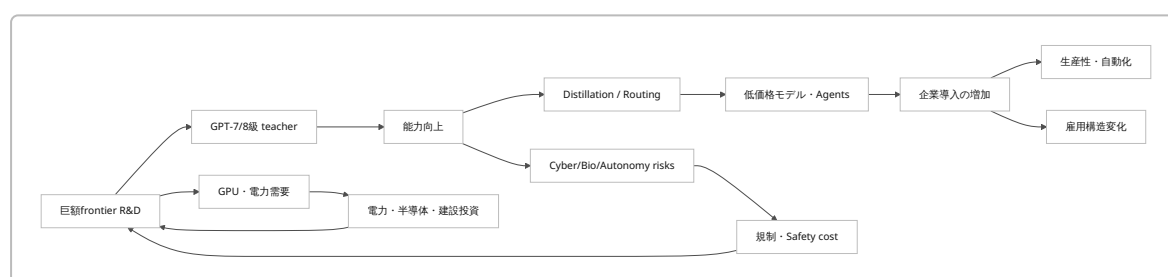
直感に反して、GPT-7/8のような巨大モデルへの集中は、最終ユーザーが巨大モデルだけを使う未来を意味しない。Power氏自身のdistillation説明やMetaのteacherモデル戦略を踏まえると、

フロンティア研究はますます高価になる一方、利用モデルはますます小さく安くなる

という二極化が有力である。 49

これはAI産業を、半導体に近い構造へ変える可能性がある。最先端「fab」に相当する基盤モデル学習は数社しか負担できず、その成果を小型モデル、API、agent、vertical applicationとして多数の企業が利用する構図である。

その場合の価値配分は次のようになる。



したがって恩恵を受ける産業は、GPU/HBM、networking、データセンター、発電・送電、冷却、クラウド、AI security、evaluation、agent infrastructureまで広がる。一方、モデル性能だけを差別化要因とする中間的AIスタートアップは、基盤モデル側の進歩に機能を吸収されるリスクが高まる。

EUでは「研究成果」そのものが規制対象になり得る

EU AI Actでは、general-purpose AI modelのうち、学習に使った累積computeが 10^{25} FLOPを超える場合、高impact能力を持つsystemic-risk GPAIであるとの推定が働く。欧州委員会はこの閾値を技術進歩に応じて変更できる。 50

GPAI提供者への義務は2025年8月から適用され、2026年8月2日から欧州委員会・AI Officeによる執行権限が本格化している。systemic-riskモデルにはrisk assessment/mitigation、state-of-the-art model evaluation、重大incident reporting、cybersecurity等が要求される。 51

GPT-7が 10^{25} FLOPを超えるかはOpenAIが学習computeを公開していないため断定できない。しかしPower氏が示すようなフロンティア世代に対しては、能力向上と同時に規制コンプライアンスの限界費用も増える可能性が極めて高い。

これは将来、モデルreleaseを決める条件を

$$\text{性能向上} > \text{計算費} + \text{安全費} + \text{規制費} + \text{法的リスク}$$

へ変える。

米国では電力と安全保障が政策問題になる

米国政府は2026年、AIデータセンターの追加電力需要を一般家庭の料金に転嫁させないというRatepayer Protection Pledgeを政策として掲げ、データセンター事業者が必要な発電・送電インフラの費用を負担する方向を示した。 ⁵²

またNISTは2026年2月にAI Agent Standards Initiativeを開始し、自律的にメール、カレンダー、買い物、コード等を操作するagentのinteroperabilityとsecurityを政策課題として明示した。 ⁵³

つまりGPT-7/8の競争は「ソフトウェア研究」だけではなく、**電力政策、土地利用、送電網、サイバー防衛、国家安全保障**へ直接波及する。

倫理的問題は「何を答えるか」から「何を実行できるか」へ

GPT-4時代の主要な倫理論点は、hallucination、bias、harmful contentなど回答内容の問題が中心だった。GPT-6 AstraがCritical cyber能力に達したというOpenAI自身の評価は、次世代では焦点が**action risk**へ移ることを示している。 ³⁶

具体的には、

- ・自律agentが現実のシステムでどこまで権限を持つか
- ・モデルが未知脆弱性を発見した場合の扱い
- ・AIがAI研究そのものを高速化する際の監督
- ・長いtrajectoryのどこで人間承認を要求するか
- ・強力モデルのweights/checkpointsを国家級攻撃からどう守るか

が重要になる。

Power氏の「研究の大半がその先へ」という発言は、したがって能力競争だけでなく、**今のGPT-6向け安全策が数世代先でも十分かというガバナンス問題**を生む。

労働市場では「全職種消滅」よりタスク再構成が先行する

ILO/NASKの2025年世界調査は、世界の雇用の約**4分の1**が生成AIへの何らかのexposureを持つ一方、最もありそうなのは全面的replacementより**transformation**であると結論付けた。 ⁵⁴

実証研究も単純な「AI＝失業」とは異なる。2025年にQuarterly Journal of Economicsへ掲載された顧客サービス研究では、生成AI支援によって生産性が平均約15%上昇し、特に経験の浅い・低技能側の労働者で効果が大きかった。 ⁵⁵

一方、ILOは2026年、女性が多い職種は生成AIへのexposureが男性中心職種より約2倍高いと報告しており、生産性向上の利益と雇用転換コストは均等に配分されない。 ⁵⁶

GPT-7級のagentが長時間のprofessional workflowを実行可能になる場合、最初に圧力が強くなるのは「職業」そのものより、

調査 → 下書き → データ処理 → コーディング → テスト → 文書化 → 定型的意思決定

といったホワイトカラー業務内のタスク束である可能性が高い。

結果として労働市場は、単純な「人間対AI」よりも、

AIを監督して高レバレッジを得られる労働者 vs AIが代替しやすい定型的デジタル作業

という分化へ向かう可能性が高い。

今後のシナリオと監視すべき指標

Power氏の80～90%発言からGPT-7の発売日を逆算することはできない。研究が多く向けられていることと、製品が完成していることは全く別だからである。

以下は予言ではなく、2026年10月9日時点の公開証拠から構成した**条件付きシナリオ**である。

短期：今後六か月

基準シナリオ（2027年4月頃まで）では、OpenAIはGPT-6.x、Sol/Luna、小型蒸留モデル、agents、computer use、安全性改善を継続しつつ、裏側では次世代基盤研究を進める。GPT-6自身が9月に登場したばかりで、10月時点でもGPT-6.1や製品統合が進行していることから、Power氏の発言だけを根拠に半年以内のGPT-7一般公開を期待するのは根拠薄弱である。 ¹⁰

加速シナリオでは、次世代training runまたは新しいreasoning/RL手法が想定以上に成功し、GPT-7という名称可否かを問わず新frontierモデルのpreview、restricted deployment、研究結果が出る。

遅延シナリオでは、能力そのものよりも安全評価、電力・データセンター、GPU供給、agent securityがrelease bottleneckになる。GPT-6 Astraが既にCritical cyber thresholdに達していることから、次世代モデルでは「学習できたが安全にreleaseできない」という期間が長くなる可能性は無視できない。 ³⁶

注視すべき指標は、OpenAIのResearch Index、Preparedness Frameworkの閾値変更、次世代RL/Reasoning求人、Stargate稼働容量、GPT-6 API価格の下落、Sol/Lunaへのdistillation性能である。 ⁵⁷

中期：今後二年

2028年10月頃までの基準ケースでは、モデル世代名にかかわらず、現在のGPT-6より強いfrontier systemが現れ、**agent autonomy**と**scientific/coding workflows**が主要な性能軸になる可能性が高い。

この時期にはEU AI Actの高risk AI規則が段階的に適用され、systemic-risk GPAIに対する評価・incident reporting・cybersecurityの運用も成熟する。 ⁵⁸

産業面では、「一つの巨大APIを全処理に使う」より、

frontier teacher → specialized distillation → router → local/cheap models → high-risk時のみfrontier

という階層型推論が標準化する可能性が高い。OpenAI、Anthropic、Metaの現在のモデル階層は既にその方向を示している。 ⁵⁹

最大の上振れ要因は、AIによるAI研究・科学研究の自動化が実際の新発見やモデル開発速度を高めることである。最大の下振れ要因は、スケーリングの限界、synthetic data問題、安全性incident、電力・資金調達である。

長期：今後五年

2031年頃までの不確実性は非常に大きく、具体的な「GPT-10」のようなモデル名を予測する意味は乏しい。

それでもインフラ面では、IEAのベースケースが2030年の世界データセンター電力需要を約945TWhと見込んでおり、OpenAI自身も2029年までの10GW級Stargate計画を掲げている。この規模でAI開発が続けば、フロンティア研究企業は事実上ソフトウェア会社+クラウド事業者+電力大口需要家+国家安全保障主体の複合体になる。⁶⁰

最も変革的なケースでは、高信頼のAI agentがソフトウェア開発、科学、法律・金融等の知識労働を長時間自律遂行し、AI自身がデータ生成、experiment design、code、evaluationを行うことで研究ループが加速する。その場合、Power氏が2026年に述べた「次世代モデルに研究を集中する」戦略は、単なる製品ロードマップではなく、**将来のR&D生産関数そのものを作る投資**だったと評価されることになる。

反対に、5年後でも長期agentの信頼性やalignmentが解けず、追加computeの限界収益が低下するケースでは、2026年の「80～90%」集中は過大投資と評価され得る。Chinchillaが示したように、AIの進歩は歴史的に「もっと大きく」だけでなく「同じcomputeをどう配分するか」によっても大きく変わってきたためである。⁶¹

シナリオ比較

時点	基準ケース	上振れケース	下振れケース
6か月	GPT-6系列改善、distillation、agent、安全評価が中心。次世代研究は非公開で継続	次世代frontier preview/研究成果	cyber/safety・compute制約でfrontier公開遅延
2年	GPT-6を明確に上回る世代、agentic workが一般化	AIがAI/科学研究を実質加速	diminishing returns、電力・規制・事故が速度を抑制
5年	大型teacher+多数の低価格studentが標準化	高自律AI researcher/agentがR&Dを自己加速	巨額capexの経済性悪化、より小型・効率路線へ転換

最終評価

本件について、最も重要な結論は三点に集約できる。

第一に、Power氏の80～90%発言は捏造ではない。日時、登壇者、セッション、録画、複数の文字起こしが相互に整合しており、本人発言として高い確度で確認できる。⁶²

第二に、「研究リソースの80～90%」「社内イベント」という流布形は正確ではない。原文は研究の「focus」を述べたもので、budget/headcount/computeの会計的配分ではない。またFellows Forumは外部の招待制業界イベントである。したがって、「OpenAIが資金やGPUの90%をGPT-7に投入している」と断定する記事は、一次ソースを超えている。⁶³

第三に、それでも発言の戦略的重要性は大きい。OpenAIの公式なStargate/10GW計画、数千億ドル規模のcompute投資報道、RL/Reasoning・agentsの採用、GPT-6のCritical cyber能力、競合各社のgigawatt級インフラ競争は、フロンティアAIが「次世代基盤モデルを作り、その能力を安価なモデルへ蒸留する」産業構造へ進んでいることを強く示している。⁶⁴

したがってPower氏の発言を、「GPT-7が間もなく出る」という発売予告として読むのは誤りである。より妥当なのは、OpenAIが「現在世代の局所最適化より、次の能力フロンティアを生み出す研究の期待値の方が圧倒的に高い」と経営・研究上評価していることを示す、異例に率直なシグナルとして読むことである。

そして、その戦略が成功するかどうかを決めるのは単なるモデルサイズではない。学習・推論compute、高品質データ、RL、agent reliability、蒸留、評価、安全性、半導体、電力、資本、規制という全スタックを同時にスケールできるかがGPT-7以降の本当の競争軸になる。現在公開されている証拠は、そのための投資が既に始まっていることを強く支持する一方、「80~90%」を具体的な予算・人員・GPU配分として扱うには依然として決定的証拠が不足している。

1 2 5 7 9 12 17 Fellows Forum AI Summit 2026 | Fellows Fund

https://fellowsforum.com/?utm_source=chatgpt.com

3 14 62 Fireside Alpha @firesidealpha - Twitter Profile | TwStalker

https://www30.twstalker.com/firesidealpha?utm_source=chatgpt.com

4 29 34 42 GPT-6 Astra: A new generation of intelligence | OpenAI

https://openai.com/index/gpt-6-astra/?utm_source=chatgpt.com

6 Agenda | Fellows Forum AI Summit 2026

https://fellowsforum.com/agenda?utm_source=chatgpt.com

8 49 59 63 OpenAI's Boris Power Says 80–90% of Research Targets GPT-7 and Beyond | AI.info

https://ai.info/news/openai-boris-power-research-gpt-7-beyond?utm_source=chatgpt.com

10 OpenAI Research | Release | OpenAI

https://openai.com/research/index/release/?utm_source=chatgpt.com

11 19 64 Stargate Project を発表 | OpenAI

https://openai.com/ja-JP/index/announcing-the-stargate-project/?utm_source=chatgpt.com

13 Boris Power on OpenAI research and GPT-7/8 — BIG CHANGE

https://bigchange.ai/blog/boris-power-openai-research-later-gpt-generations?utm_source=chatgpt.com

15 45 The Llama 4 herd: The beginning of a new era of natively multimodal AI innovation

https://ai.meta.com/blog/llama-4-multimodal-intelligence/?utm_source=chatgpt.com

16 18 OpenAI executives reveal: 80% to 90% of R&D resources have been shifted to GPT-7 and subsequent models

https://www.aibase.com/news/31366?utm_source=chatgpt.com

20 Stargate Community | OpenAI

https://openai.com/index/stargate-community/?utm_source=chatgpt.com

21 OpenAI expects compute spend of around \$600 billion through 2030, source says By Reuters

<https://www.investing.com/news/stock-market-news/openai-sees-compute-spend-of-around-600-billion-by-2030-cnbc-reports-4517341>

22 OpenAI annualised revenues \$20bn less than previously signalled

https://www.ft.com/content/b66a9858-f8fb-46cb-b506-44bfe26fca2a?utm_source=chatgpt.com

23 57 Research Engineer/Research Scientist, RL/Reasoning | OpenAI

https://openai.com/careers/research-engineerresearch-scientist-rlreasoning-san-francisco/?utm_source=chatgpt.com

24 Research Engineer, Codex | OpenAI

https://openai.com/careers/research-engineer-codex-san-francisco/?utm_source=chatgpt.com

- 25 **OpenAI hiring: 757 open roles today · McCoy Hiring Tracker**
https://tracker.mccoy.io/openai?utm_source=chatgpt.com
- 26 **Language models are few-shot learners | OpenAI**
https://openai.com/index/language-models-are-few-shot-learners/?utm_source=chatgpt.com
- 27 **GPT-4 | OpenAI**
<https://openai.com/pt-BR/index/gpt-4-research/>
- 28 **GPT-5 System Card | OpenAI**
<https://openai.com/index/gpt-5-system-card/>
- 30 31 **Scaling Laws for Neural Language Models**
https://arxiv.org/abs/2001.08361?utm_source=chatgpt.com
- 32 40 **LLM で論理的思考を学ぶ | OpenAI**
https://openai.com/ja-JP/index/learning-to-reason-with-llms/?utm_source=chatgpt.com
- 33 **Will we run out of data to train large language models? | Epoch AI**
https://epoch.ai/publications/will-we-run-out-of-data-limits-of-llm-scaling-based-on-human-generated-data?utm_source=chatgpt.com
- 35 **Demystifying evals for AI agents \ Anthropic**
https://www.anthropic.com/engineering/demystifying-evals-for-ai-agents?utm_source=chatgpt.com
- 36 **Safety overview: GPT-6 Astra | OpenAI**
https://openai.com/index/safety-overview-gpt-6-astra/?utm_source=chatgpt.com
- 37 41 60 **Executive summary – Energy and AI – Analysis - IEA**
https://www.iea.org/reports/energy-and-ai/executive-summary%C2%A0?utm_source=chatgpt.com
- 38 **AI and energy security – Energy and AI – Analysis - IEA**
https://www.iea.org/reports/energy-and-ai/ai-and-energy-security?utm_source=chatgpt.com
- 39 61 **Training Compute-Optimal Large Language Models**
https://arxiv.org/abs/2203.15556?utm_source=chatgpt.com
- 43 46 **Claude Opus \ Anthropic**
https://www.anthropic.com/claude/opus?utm_source=chatgpt.com
- 44 **Gemini 3.1 Pro - Model Card — Google DeepMind**
https://deepmind.google/models/model-cards/gemini-3-1-pro?utm_source=chatgpt.com
- 47 **Anthropic commits to spending \$200 billion on Google's cloud and chips, the Information reports By Reuters**
https://www.investing.com/news/stock-market-news/anthropic-commits-to-spending-200-billion-on-googles-cloud-and-chips-the-information-reports-4661029?utm_source=chatgpt.com
- 48 **Model cards — Google DeepMind**
https://deepmind.google/models/model-cards/?utm_source=chatgpt.com
- 50 **EUR-Lex - 02024R1689-20260727 - EN - EUR-Lex**
https://eur-lex.europa.eu/eli/reg/2024/1689?utm_source=chatgpt.com
- 51 58 **The enforcement framework of the AI Act | Shaping Europe's digital future**
https://digital-strategy.ec.europa.eu/en/policies/enforcement-ai-act?utm_source=chatgpt.com

52 **Ratepayer Protection Pledge Proclamation – The White House**

https://www.whitehouse.gov/presidential-actions/2026/03/ratepayer-protection-pledge-proclamation/?utm_source=chatgpt.com

53 **Announcing the "AI Agent Standards Initiative" for Interoperable and Secure Innovation | NIST**

https://www.nist.gov/news-events/news/2026/02/announcing-ai-agent-standards-initiative-interoperable-and-secure?utm_source=chatgpt.com

54 **One in four jobs at risk of being transformed by GenAI, new ILO–NASK Global Index shows | International Labour Organization**

https://www.ilo.org/resource/news/one-four-jobs-risk-being-transformed-genai-new-ilo%E2%80%93nask-global-index-shows?utm_source=chatgpt.com

55 **Generative AI at Work* | The Quarterly Journal of Economics | Oxford Academic**

https://doi.org/10.1093/qje/qjae044?utm_source=chatgpt.com

56 **New ILO data confirm women face higher workplace risks from generative AI than men | International Labour Organization**

https://www.ilo.org/resource/news/new-ilo-data-confirm-women-face-higher-workplace-risks-generative-ai-men?utm_source=chatgpt.com